

会 議 録

会議名 (審議会等名)	平成19年度 第1回 川西市青少年問題協議会		
事務局 (担当課)	生涯学習部 生涯学習推進室 内線(3441)		
開催日時	平成19年7月9日(月)午前10時～午前11時30分		
開催場所	市役所 4階 庁議室		
出席者	委員	大塩民生、村木修、安田忠司、武村雅樹、松尾幸恵、齋田全代、秋田修一、若松省吾、高木佳子、澁野敏彦、宮路尊士、稲垣明、佐伯直樹	
	事務局	生涯学習推進室長 玉邑一夫、 地域教育課 課長 吉田 薫、主査 羽瀬克彦、平瀬史明	
傍聴の可否	<input checked="" type="radio"/> 可・一部不可	傍聴者数	0人
傍聴不可・一部不可の場合は、その理由			
会議次第	1.開会 2.委員の委嘱 3.会長あいさつ 4.協議事項 (1)副会長の選出について (2)平成19年度川西市青少年健全育成要綱について (3)「青少年の表彰」について (4)平成20年川西市青少年育成フォーラムについて 5.意見交換 青少年の自立支援と地域の役割 6.その他 7.閉会		
会議結果	4.協議事項 (1)副会長に三村委員を選出 (2)重点項目等18年度から継続して推進する (3)平成19年8月1日案内配付。平成19年10月17日締切。 実行委員 澁野委員(青少年団体連絡協議会) 佐伯委員(中学校校長会) 稲垣委員(高等学校校長会) (4)平成20年川西市青少年育成フォーラムを青少協とPTA連合会との共催実施に向けて調整する 5.意見交換 < 青少年の自立支援と地域の役割 > ・家庭で青少年の自立への意欲の基盤を培う ・すべての青少年に体験活動を根付かせ、体験を通じた試行錯誤 切磋琢磨を見守る ・社会との関係の中で自己実現を図れるように地域の大人が導く ・一人ひとりに寄り添いその成長を支援する ・情報メディアの急速な普及に伴う課題へ大人の責任として対応する 新しく委員になられた方も多いため、各委員から団体の青少年健全育成事業の取組の報告や団体から見た子どもたち(取り巻く環境を含む)の気になる点の意見交換を実施。		

1, 開会

2, 委員の委嘱 自己紹介

今回改選委員 < 全委員 > 任期:平成19年7月1日 ~ 平成21年6月30日(2年間)

3, 大塩会長挨拶

4, 協議事項

(1)副会長の選出について

委員の互選により、三村委員(教育委員長)を選出。

(2)平成19年度 川西市青少年健全育成要綱について(吉田課長)

趣旨、主唱、推進機関等、青少年の健全育成推進項目を説明。

重点目標の具体的な行動目標を説明。

質疑・応答 なし

(会長)平成18年度と同じ内容になっております。平成19年度についても、この要綱に沿ったかたちで(方針等)ですすめることとします。

各自持ち帰っていただき、団体におかれ推進していただきたいと思えます。各団体間での連携もあわせてよろしくをお願いします。

また、意見・質問等がありましたら、事務局へ連絡していただくか、第2回協議会で再提案していただきたいと思えます。

(3)「青少年」の表彰について(吉田課長)

昨年度7条を明記し改善を行った。同じ団体から多数とならないよう配慮等目的、表彰の対象、表彰の範囲及び基準、表彰の方法、表彰の時期、候補者の推薦、被表彰者の決定、その他を説明。

- ・案内配付日 平成19年8月1日
- ・推薦書提出締切 平成19年10月17日
- ・委員数を3名に

質疑・応答

(会長)今の説明、提案に対しましてご意見・ご質問等いかがでしょうか。

趣旨に添った推薦等よろしくをお願いします。

(4)平成20年川西市青少年育成フォーラムの実施について(秋田委員)

青少年問題協議会主催の平成20年川西市青少年育成フォーラムと、PTA連合会主催のPTCAフォーラムを共催で行う方向で進める説明。

主旨・形式・開催時期の近似性

参加者のこと

出演者のこと

施設予算面のこと

以上

(会長)何かご質問、ご意見はございますか。

(委員)予算面で、県の補助があるとか、そのような課題には対応できるのでしょうか。

(事務局)事前に県の方にも確認し、必要な部分、不必要な部分を精査し、両団体の調整により執行することと、了解済みです。

(会長)では、説明にもありましたように、今後の調整は必要ですが、主旨の似たフォーラムを今回は共催とし、とてもたくさんの人の中で開催できるようにすすめていきたいと思います。

フォーラム実行委員の案

(事務局より提案)

渋野委員、稲垣委員、佐伯委員の3名と、秋田委員は、PTA連合会より実行委員となること。〈選考委員を兼ねる〉

また、今年度についても青少年の実行委員を5名程度募る。

・日時 平成20年1月19日(土) 13:30~16:00

調整により、もしかしたら平成20年2月16日(土)の可能性もある

・場所 川西市文化会館大ホール

・内容 第2回青少年問題協議会で提案

各委員了承・全委員賛同

5, 意見交換

〈青少年の自立支援と地域の役割〉

- ・家庭で青少年の自立への意欲の基盤を培う
- ・すべての青少年に体験活動を根付かせ、体験を通じた試行錯誤切磋琢磨を見守る。
- ・社会との関係の中で自己実現を図れるように地域の大人が導く
- ・一人ひとりに寄り添いその成長を支援する
- ・情報メディアの急速な普及に伴う課題へ大人の責任として対応する

(会長)

ただいま、事務局の方からでございますが、青少年健全育成活動の新しい視点を参考に提案をさせていただいております。今後、各団体の青少年の健全育成の取り組み状況を中心に、また、現在青少年やそれをとりまく環境についてのお考え等、いろんな交流の意見交換をさせていただきたいと思います。今申しましたように、あくまで提案でございます。それ以外のことで結構ですので、意見を交えさせていただけたらありがたいです。どなたでも結構ですので、ご意見ございましたら、この場でよろしく願います。

(委員)

私どもの会は本当に女性ばかりで、子育てが終わって、そして、まあ良い言葉で言うと女性だけの特性をいかした、地域にそったものにしていきたいと思っています。やはり女性ならではの感性の、男性とはまた違った面で、子育てを終えたものにしかわからない、そう言う意味で、地域で、この健全育成をもっと連携をとったらすばらしい組織になる。いつもそう思っておりましたけれども、なんかその突破口が見つかればいいなと思います。やはり、子どもは昔と変わっていませんよね。きれいな心をしています。そして子どもの時、誰もが悪い人なんていないんです。私がずっと考えていますのは、今小さいときに親は一生懸命になっておりますが、ほっとするのかそれとも「勉強、勉強」と言い出す始まりですので、勉強以前に大事なこと、それはやはり母親になって、この年になってやっとわかってきたような気がします。

(会長)

前回の会議で委員からもご意見があったと思います。本当に来てもらいたい子どもには、なかなか来ていただけないという意見があったように思いますが、補足がございますか。

(委員)

毎年同じ事を言っておるんですが、活動に参加している保護者というのは優等生、全然問題のない子どもであって、今私ども子ども会でも、お母様方のサポートとして5年生6年生の保護者に事業の企画の会議と一緒にしてもらっているんですが、そこにくるお子さんと言うのは、何の問題もない子なんです。私どもの会でも思っているのは、普段出てこない子にイベントに参加して欲しいと思っています。

(委員)

去年、猪名川地区のPTCAフォーラムに出させていただきました。そのとき猪名川町の方すごい人数が多かったです。午前中の時はもちろん子どもはいませんでしたけれども、いろいろな分野の人がたくさん集まっていました。がんこ寿司の方が自分の歩んで来た道を話されていたりしました。午後からは、各14ぐらいのグループに分かれました。そこにいろいろな先生もいらっしゃいましたし、PTAもいるし、様々な分野の人で20人ぐらいのグループができました。そこで話をいろいろされて、どういう風に今後っていこうかという内容で非常に印象深かったです。もう少し増えるのであればもう少し、同じ人ばかりでなく、出てこない人が問題なので、そういう人を出すように基礎をやって行かないとやはり根本を大事にしないと何でも変わらないとPTCAのフォーラムを見ていて思いました。

(委員)

さきほどPTCAフォーラムのほうのお話がありましたが、青少年フォーラムのほうは皆さんもご存じのとおり、前列が埋まらない程度。去年ちょっと生徒さんに企画させて、生徒さんの動員力をあてにするのではなく、生徒さんに企画に携わっていただくので、そのなかで大半の子がでてるのであれば見に行こうというかなりの子ども心がありますので、その辺を今回刺激していただきたいです。

(委員)

いまフォーラムのお話が続きましたけれども、今回またお世話になりますけれども、なにかご意見ありましたらお願いします。

(委員)

フォーラムもそうなんですが子どもの力というのは、やはり信じたいと思っております。

親が今すごく問題だとずっと思っておるんですが、子どもも大人になっているんな智恵とか体験することによって、だんだん良くなるのも悪くなるのも社会性が養われるというのはいいんですが、その中でやはりしっかりした子はやはり核になってもりあげていかないと、やはり核になるのは何の心配もないしっかりした子だと思うんですね。そしてその子達が一生懸命この大人の社会のなかで、自分たちの居場所をどんどんつくっていく。これまでの青少年フォーラムも徐々にその積み重ねでなってきたと思うんです。非常にこういう子ども達が実行委員になって、ああいう大きな大会を自分たちで開けるというケースは、私の聞く分には他の市ともあまり見られないので、すごく良い思い出でした。

(会長)

今回ゆとり教育の基本法が改正されまして方向転換されましたので、この辺の事が今後の何かに影響があるのか、まだピンとこないですし学校教育はまだこれからだろうと思うんですが、ご意見をお願いします

(委員)

教育三法ということで、一つ大事なことは以前より変わらないと思います。生涯学習という概念をこれからも継続していくということについては、変わりないです。私自身はそれは最終的には、この活動は人間としてのやはり知識も必要だし、知識ばかりでなく人間としての規則を重んじる。そういったこともやはり学校教育でやっていかないといけないし、私自身はもうちょっと低学年の時からそれを継続的にやっていく必要というのを感じています。その一方、そういったことをもとにして社会に参加するとか、そういうことは非常に大切だと思います。今後土曜日をどうするかということは、いずれ問題になる。そういうなかでも子どもたちが社会に参加していく、あるいは自分たちで何か企画していく。そうしたこれからも必要なことについては、変わらないように思います。中学生でも高校生でも、自分たちで文化祭や体育祭を企画するんですよ。そして素晴らしいものをします。そうしたことを体験として持ちながらやはり今後は市民として、あるいは生涯学習の一環として発揮していく。大人の場合は、やはりそういう場をつくっていくということが必要ではないかと思います。ただ今この問題の一番根っここのところは、世界的な学力テストのなかで子ども達が非常に基礎的なものあるいは、基礎ばかりではないと思っています。とくに意欲とか。そうした場合について弱くなっていると思います。そういった面でも心配なところがあることが出発点になると思います。そうするとやはり学校で、幼稚園では何をすべきか小学校では何をすべきか、そういったことについて一度きちっと整理しなければならないし、私見ですが、学校というところは知識を入れるところだと思います。どういう知識をどういう風にいれてるかが問題であって、そこが学校が学校たる由縁であると思います。そういうことによって人間が豊かになる力をつけて、外に向かったの力が発揮できるようになる。そういうところが求められているし、必要だと思います。これはいつの時代であっても一緒だと思います。そういったふうに考えると、一番原点である生涯学習の視点を考えながら、それぞれの役割というものを考えていかないといけないなと思います。多くの人の指摘はやはり、上の問題というのを強く出されている。ただそれを誰がいつどこでやっていくかが難しい問題だと思います。私はそれが一番できるのは学校だと思います。

(会長)

委員の方ご出席頂いております。なにか意見ありますか。

(委員)

今回初めて出席しておりまして、よくわかっていないんですが、補導委員としましてはフォーラムということで参加させていただいておりまして、その実行委員を生徒さんにしていただくという方向に流れがかわってきたときには、私も補導の役をしておりましたので、フォーラムに参加しまして個人的な感想ですが、いつも人数が少ないということに個人的にこないフォーラムなのに、どうして人数が集まらないのかなと思っていました。お話を聞いておりまして、検討していくというので補導委員としても協力していきたいと思っています。ただせっかくフォーラムに参加してみんなにわかってもらいたいところ、参加数が少ないということだけを気づいていまして、内容とかその辺のことは去年なんかは、子どもさんが主体でいろいろと企画・運営されていまして、私は良かったなと個人的に思っています。青少年補導で出ておりますので、また会長と相談しましてこの問題とかどういう意見をもってくるとかは、また相談してきたいと思っています。

(会長)

今中学校の話ものっていましたけども、高校からみたご意見を賜れたらありがたいと思います。

(委員)

話の流れからすると、少しずれたものになるかしれないんですけども、本校で6月に合唱コンクールがあって、学年ごとの選考を行ってそれから上位3チームが決勝で三学年の代表としてクラスで選考を行う。予選の次が決勝ですので、準備からいれると2週間くらいそのために生徒が活動しているようなものがあります。予選の時から保護者だけでなく希望があれば地域の方も来て頂いてもいいと思うんですけども、保護者は来ていただいています。結構来られています予選でも決勝でも。予選は学年ごとですので、学年ごとに50は来ていなかったと思います。決勝の時はたぶん100ぬけたんではないかと思うくらい来ていただいています。その後、合唱コンクールがあって二週間後ぐらいに今度は地域の祭りなんかにも出ていますけれども、本校にダンス部がありまして校内ですが他のクラブみたいに、体育大会の運動があります。ダンスはないのか、三年生が引退するようになり、催しとか大会がないようなんですけども、校内で発表会をやっています。それを機に三年生が引退するという催しが7月にありました。見たかったんですが、ちょうど学校の会議と重なっていて見れなかったんですが、会議が終わって校長室のすぐそこに通路があるんですが、そこを保護者が帰っています。何でなのかと考えていたら、ダンスの発表会があってそれを見に行ってたんだなと、そういうことがあってPTAの方、役員の方と話をすると、自分の子どもの活動というものには親はものすごく興味を持っていて、見に来てくれるということを知りました。それはそれであるほどだと思います。ですから先ほどからでていますフォーラムのなかで生徒が実行委員会になって、生徒の活躍する場があるということであれば、そのフォーラムを保護者はフォーラムだけでなく、その生徒同士のつながりで動く。中学生なり、高校生なり、増えてくれば、その親も興味関心をもってくれるかなとも一つ思っています。もう一方、別の話になるかもしれないんですが、高等学校で特に本校の大事な使命だと思いますが、3年間教育した子の進路をそれぞれ決めていかないといけない、この間から進路指導の先生なんかには言っているんですが、進路を決めるというのは就職であれ進学であれ、一人で入社試験や入学試験をうける。だから全く個人的な活動というのもうま

れてるかもしれないけども、実は個人戦ではなくて、団体戦であると、進路を決めるのも団体戦という意識でそれぞれが入試にあたっていけば絶対そのほうが、成果は上がるんです。進路指導を何度も担当したことがあります、学年がそういう雰囲気になれば実績は絶対に上がります。自分のことだけでないという気持ちであれば、絶対に成果は上がる。そういう気持ちをまずは、学年の先生なり進路指導部の先生が持って、それが生徒にも伝わってくれるようになってくれればなという話をしているんですけど、今のここでの話を伺っていると、子育てとか青少年の自立というものをこれを強調しすぎれば、またマイナスがでてくると思います、団体戦という側面を持っているということをお親が少しでもわかってくれれば、もっと関心のある親が増えてくるのではないかと、関心のあるというか積極的に関わってくれる親が増えるのではないかなということをお先ほどの話を聞いて思いました。

(会長)

ありがとうございました。まあ確かに我が子はかわいいというか、それはおっしゃるとおりでただいま合唱祭と申しますか、そんな競技を生徒から保護者に対して何か連絡されているんですか。それとも子どもが実際親と行くことによって運営になるんですか。

(委員)

ええ、それは特に学校からは案内は出していません。子どもが口で言っていると思います。わかるんですよ親は嫌でも。早朝練習をやっているんです。食堂へ来る生徒数がその合唱コンクールの期間中には増えるんです。早朝練習のために家を出るのが早くなるから、お弁当を作るのが間に合わない。食堂で食べてということもあるらしいです。だからそういう生徒の生活が変わってるから、合唱コンクールなんかということはお家庭でわかるわけで、それでいつなんかなと聞いたなら言わないとしゃあない。だから特に学校からの案内はしていないんですが、それでもああやって来てるといことです。

(委員)

ひじょうに上手ですね合唱コンクール私も出ましたけれども、競争でがんばる。すごいですね。村祭りもそうですね。地域にとけ込んだような活動をされていましたけれども。

(会長)

確かにおっしゃっているのは、個人戦ですけども団体戦というチーム戦とおっしゃっているというのは、それなりにみなさん理解はしていただけたと思いますけれども、そういうどちらかという今この時代個人戦に走ってしまうという気がします。だからそれをどう解決するかということが大きな課題だと思えます。まあそういう熱心な保護者というかもっともっと増えてくれればいいなと思えます

(委員)

委員がいろいろとおっしゃいましたが、学校の苦情のなかにもそういった「こんな保護者がいますよ。」という情報もいただいています。うちが一番抱えている問題は今皆さんが協議されているふれあい教育はどうするのかと、ふれあい教育は学校で出来るんでしょうかと、学校側は親にはなかなか手が出せない、では親に啓発するのは誰がやっていくのでしょうかと、議論したことがあります。少なくともPTAという組織がある以上、そこから啓発していく活動を絶対に僕たちがやっていかないとだめですね。という話をさせてもらいました。二年前にもPTAの会長をやったときにその議論で話したのは、PTAでは広報紙を出しています。それぞれの学校で一人一役必ず全保護者に参加をして頂きましょうと、今もそれは継続しているんですが、逆に一役と限定する

と一役でいいのかと、そのまた逆も増えてきているのも事実です。ただ非常に熱心な保護者も増えてきているのは、みなさんも感じられているとおり、今、ますます増えてきていると思います。本当にみつなかホールなんかでダンスの大会をしたときの保護者の数は恐ろしいほどですし、エレクトーンやピアノの発表会にこられた保護者の数はものすごいですね。確実に来れてるし、逆に今の時代は熱心すぎると思います。例で言うと少し見守って少し離れて、自分でたちあがるのを待つ。親は攻められがちです。時代裏返しは必ずやってくると思います。団塊の世代の人たちと子ども達が出会っていく時間は本当に少なくなっていくと思います。そんな時代に自分たちが子どもをつくったときどうしようというんな問題があがります。

(会長)

自分の子ども例えば先ほどみつなかホールさんたくさんのお見えだと思いますが、そういうのは私なんかと思いますが、例えばスポーツ少年団とか軟式野球とかはこれはずいぶんと昔から親が日曜日だよとぼやくんですね。いまはスポーツ系たくさんの方がいらっしゃると思います。なんとなくこの間全国で一位になった白藤さんという三味線ですね、この方の話なんかも聞いてみると、やっぱり忍耐というか耐えるというかそういう良い意味での忍耐力も育っていると思うんですが、今のお子さんはその辺をきづいてるのではないかなと、さきほど講演の話もでしたがどうもその辺の世代が忍耐力がないのかなというふうなところに行くんですが、今日は青少年協議会ですから親の会ではないですけど、まあそういうのも発生するんですけどね、まあその辺も見極めてやっぱりこれからの活動のなかで引き込んでいく、巻き込んでいくというのはやはり必要ではないかなと、そういうふうに分の子どもの出番をしっかりと見守っていただく中で何かそういうことをしていただければと今話を聞いて感じるわけですが、何かご意見ございませんか。

(委員)

いろいろな会議に出ますと確かにお年寄りほどの場所でもこられるんですが、私も今、子ども達の集団登校と一緒につき合っておりますけれども、早寝早起き朝ご飯という、私は12名の子どもに付き添っていますが、そのうち2名は朝ご飯を食べて来ていません。全部、朝確認するんです。それでも2名はいつまでたっても朝ご飯を食べてこないですね。お母さんは作ってるのと聞くと自分が食べたくない、やっぱり朝食べないと大変でしょう。お勉強も出来なくなるからといっても食べてこないということは、夜が結構遅いんだと思うんですね。お母さんが作ってくれるけど食べてこないというのは、やはり学校でも朝ご飯大事なんだよと、真剣に取り組んでいく上でさらにね、子どもにはもう少しってあげた方がいいのかなという気はしています。もう一つ学校の方では安全協力員というのをみなさんにさせていただいておりますけども、あまりにも今は過保護なんですよ。横断歩道でもねボタンおして青になったら渡れって、もうこれ自立にも何もなっていないんですね。じっと見守って、子どもが渡るのを見て、渡らなかつたら今青だよって教えてくれればいいんですが、すべてがおとうさん、おかあさん、おじいさん、おばあさんの立っているところで誘導なんですね。だから私が今は子ども達にね自分たちで青の確認をさせて、渡していただだけませんかという、そうでないと危なくなるとわからないからと、そのときはそうなんですが、また後になって一緒なんですね。先生の方にも何もかもでなく子どもが自分で横断歩道を渡れるようにしていただだけませんかというお願いしているんですが、それが実行できないのか言いにくいのか、一生懸命して

くださっているからやはり先生方は言いにくいのかなと思って、私たちの方で聞いてい
ってるんですが、なかなかそれがうまくいかないという問題点があがっています。その
点が私としては非常に難しいと思っています。

(委員)

先ほども教育長さんが生涯学習のことで話されていましたが、本年度のテーマですね。
社会教育委員としましては、「よりよい地域教育システムづくり」ということで、サブ
テーマの人でつながるということで、進めさせていただこうと、昨年テーマが「人
つながる地域の輪」という形で教育委員会のほうでは私どもが考えさせていただきま
した。地域的にどんな形で皆さんとこの教育について、進めていけるのかなと、システ
ムをとという形になると堅くなると思うんですが、そうでなく実際本当に地域の皆さんが
こういう形で子ども達をみながらやっていくものをつくれたらなという思いで話をし
ています。ただそのときに話がでましたのが、家庭教育こちらの方もやはり社会教育の方
では基本的な事だとはわかっていますが、実際のところそれをテーマにしていくとい
うのは、ひじょうに大きな問題ではないかということで、会の中でやはりそのところを
テーマに第一にあげられなかったということは事実です。その中で実際皆さんもご理
解いただけているとおり、家庭の場合は一人一人の親が本当に前に出てもらってやれ
ればいいんですが、やはり今の現実の社会の中ではどうしてもそうしたところに出
て行けないという方がたくさんおられると思います。その方が大半だということ
があると思います。ではできるところからやっていかなければということで、本
年度とかいろんなことを考えながら進めていこうと考えています。その中のリー
ダーというものを先ほどもお話をさせていただきましたが、核となる場所、それ
から核となる人、進めていってくれる人々が協力していただかないと、やはり
進まないと思います。川西の場合は、まだ組織ができていないところもあると思
いますが、非常に活発に活動しているところもあります。そういうところの中で
子ども達のことを考えていただけたところを例えばですが、中心にしながらい
ろんな議論を重ねながら進めていったらどうなのかなと私個人的には社会教育
の議会の中でお話をさせていただいて思いました。おのおのそういった形
で委員会としては進めていきますが、やはり生涯学習のなかの一つの子ども
達のスタートのところですのでそういったところでなんとか形にできればと思
います。

(会長)

中学校と高校の話がでしたが、中学校の方はご意見ございませんか。

(委員)

私の感覚では保護者の方のクレームはほとんど正当なクレームだと思います。学校に
対するクレームは、やっぱり私どもに落ち度があるのがほとんどです。無理難題は
本当にもう百件に一件あるかないかです。ですからメディアというのは何でも過
度に報道をしますので、その辺は誤解がないようにほとんどが学校に対する
クレームというのは私どもに落ち度があるんです。それは誤解のないよう
にお願いします。それからなかなか中学生というのは委員の皆様もご承知
のように、自分たちの世界を持ちたがる年頃です。秘密の場所を持ちた
がる。これは問題のある子もない子も自分たちだけの場所を持ちた
がります。大人の目の届かないところの、これは発達過程だと思います。そ
ういう中で、小学生に比べると少し中学生は少し素直でないのではと、秘
密があるんじゃないかと思うこともあるかも知れませんが、その辺は発達
段階の問題もあるんじゃないかと考えております。もちろん私どもの指
導のいたらない部分もあるのかもしれませ

んが、小学生とはまた発達段階が違うんだということをご理解いただければ幸いです。それから私ども教育長から川西らしさについて追求しなさいとよく言われるわけですが、そのたびに川西らしさとは何かと考えます。一つは対応性というのもあるんですが、私が今、川西らしさというのを感じているのは、最近使わない言葉ですが民度が高いと言いますか、非常に優秀な方が多いですね。それで芦屋市に比べると私ども阪神の校長会で交流がありますが、芦屋市、西宮市に比べると川西は私立中学校へ流出数が少ないです。ですからなおのこといろいろな面で教育熱心な方、あるいは知的な意味でも優れた方、あるいは、様々な実業家で成功なさっている方が公立中学校へたくさんお子さんをあずけられているんですね。この辺が私は川西市の大きな特徴ではないかというふうに思っております。こういう保護者の方々は、一度敵にまわすと大変なことになりますが、一度応援団になっていただくと非常に心強い方々です。どうすればそういう方々のご指示を得られるかということが最大の課題だと思っております。まだまだ話さなければならぬことがたくさんありますが、とりあえずもう一つ、最近教育について様々な考え方がございます。基礎基本の問題。ゆとり教育の問題。これについて私ども校長会は、とりあえず市民の皆様のお考えを受けてということで、当局の指示待ちというところで現在考えています。もちろん個人的には、それぞれ教育に携わるのち意見がございしますが、組織としては市民の皆様のお考えを精一杯大切にしていこうと思っております。言葉が足りないですが、以上でまた何かご質問ありましたらお答えしたいと思います。以上です。

(会長)

ちょっと私もわからないかなと思ったところ、今の発言を聞きまして今日の新聞、プレスが先行しているという話ですが、川西にはそんな親はおられないと今ちょっと発言聞こえたんですが、そうであればいいんですがなんとなく聞く耳ではですね、いろんな先ほどから出ている保護者のことも少し問題になっているように思いますが、中学校の校長先生がものすごく優等生のやること、またいろいろとみなさんで議論していただけたらありがたいと思います。決して斜めから見ているわけではないんですが若干そういう声もあるように思いますので、それはそれとして今の立場としては、しっかりそういう目で見ること大事かと思っております。なんとなくそういう気がしてきました。他の委員の方も今日はもうあまり時間があまりありませんが、意見をいろいろ考えさせていただけたらありがたいと思います。時間もかなり経過してきています。今本当に深い意見を述べていただきました。やはり一朝一夕とはなかなかできない分もたくさんあるかと思えます。自立に向かっている大きな目的かと思えます。先ほど私少し述べさせていただきましたが、昨日ぐらいから全国で高校野球の予選会が始まっております。全国で本当に多くのチームが参加しますが、負けを知らないのは1チームですね。いつもよく言います。ただ問題、負けたチームがどう立ち直るか、それが大きな課題だと思えます。自立をするためにはやはりよい意味での跳ね返り、そういうことをどういうふうに育てていくかが大きな問題ではないかなと思えます。それぞれの所属の団体の皆さん、そういうことは十分に承知いただいていると思います。どういうふうにそれを広めていくのかということもひとつの課題だと思えます。今後ともまたそういう点におきまして、各団体におかれましてもいろいろ連携しながら川西の町が健やかというか、明るくなっていけたら本当に良いと思います。今後ともご協力をお願いします。これをもちまして意見交換を終了させていただきます。

6, その他

事務連絡（事務局）

青少年の表彰は、10月17日締め切り。8月1日配布

第2回青少年問題協議会 12月予定

内容 青少年の表彰、被表彰者の決定・青少年フォーラム・協議事項
資料説明

・青少年愛護条例・川西の教育・「ふれあい」

7, 閉会（11：30）

会長の閉会あいさつで終了